

平成25年度豊かなむらづくり顕彰事業 実施概要

本顕彰事業は、集落等におけるむらづくり活動や農業生産活動に顕著な業績を収めている団体等を表彰するとともに、その活動内容を広く紹介することにより、農業・農村の発展に寄与することを目的に、関係機関の御支援をいただきながら昭和56年より実施しており、本年度で32回目を迎えました。

これまで「むらづくり部門」で156団体、「農業生産部門」で77団体の合わせて233団体が、農山村における地域づくりの模範的な団体として受賞されています。

| 内 容 | 時 期 |
|-------|--|
| 事業募集 | 平成25年8月20日（火） |
| 予備審査会 | 平成25年10月30日（水）13：30～15：00 ところ：県庁本庁舎3階総務委員会室 |
| 現地調査 | 平成25年11月5日（火）～11月28日（木） うち5日間 |
| 本審査会 | 平成26年1月14日（火）13：30～15：00 ところ：杉妻会館2階 けやき |
| 表彰式 | 平成26年3月26日（水）10：30～11：40 ところ：杉妻会館4階 牡丹 |

平成 25 年度豊かなむらづくり顕彰事業 審査講評

本年度は、2市3町から「むらづくり部門」に3団体、「農業生産部門」に2団体の合わせて5団体の御推薦をいただきました。

本年度の推薦団体は、「女性の感性と経験を生かした特産品開発によるむらづくり」、「町のブランドとして地域が一体となって取組むミネラル栽培によるまちおこし」、「新たな国道開通を起爆剤とした区民全員によるむらづくり活動」、「50年もの間、たゆまぬ努力で繋いできた優良種子生産」、「消費者も含めた組織活動による持続的な有機農業の展開」など、地域の特長を生かし、創意工夫を重ねながら、先進的、かつ、個性的なむらづくりや農業生産活動が実践されています。

震災の影響が未だ厳しい中、農山漁村に受け継がれた豊かな資源を活用して、地域の潜在的な活力を引き出し、地域の絆を推進力として大きな成果を挙げているその姿は、本県農業・農村の再生に大きな弾みとなるものであります。

審査会では、これらの推薦団体は今後も一層の発展が期待され、他地域の模範であると高く評価できることから、平成25年度豊かなむらづくり顕彰事業の優秀団体として5団体を決定いたしました。

なお、西会津町の「にしあいづ健康ミネラル野菜普及会」は、町の施策の柱ともなっているミネラル栽培の中心組織として、様々な団体等と連携しながら、ミネラル栽培野菜のブランドを活かした取組みが地域を超えた広がりを見せております。直売所、学校、福祉施設へのミネラル栽培野菜の提供により、町の健康づくりにも大きく貢献し、食育、後継者の育成にも繋がるとともに、ミネラル栽培野菜を使用した6次産業化の取組みにも広がっており、地域の農産物の消費拡大と活気ある地域づくりに大いに寄与していることから、平成26年度「豊かなむらづくり全国表彰事業」に本県代表として推薦することといたしました。

各受賞団体の皆様には、今後とも豊かで活力あふれるそれぞれの地域を次世代に繋げていくためにも、積極的にむらづくり活動に取り組み、本県農業と農村の振興に一層御貢献いただきますよう期待いたします。

(審査長 福島県農林水産部長 畠利行)

平成25年度豊かなむらづくり顕彰事業受賞団体の概要

【 むらづくり部門 】

◆企業組合 ぴかりん村（会津若松市）

キャッチフレーズ：「女性の感性と経験を生かし、特産品開発によるむらづくり」



企業組合ぴかりん村 加工メンバー

旧北会津村では、地域資源を生かして特産品開発を行う活性化計画をまとめ、その推進のために企業組合ぴかりん村が設立されました。以来、女性を中心となって、「地域の農産物を地域の消費者へ提供」の理念実現に向け、農・商・工の会員それぞれが役割を果たしながら、活動を行ってきました。

特産品開発の拠点として、りんご、トマト、大豆などの地域の農産物を生かした加工品を次々と開発する一方で、地域の農家からの少量の製造委託にも対応、付加価値を高めた製品は地域農家の所得向上と6次産業化の推進に貢献しています。地域に伝わる食材を発掘した商品「いもころりん」（漬物床）は、広くマスコミにも取り上げられ、地域のPRに大きく寄与するとともに、公民館活動やグリーンツーリズム等により郷土食の伝統を次世代に伝承するなど、地域の食に根差した活動が展開され、地産地消の推進に大きく貢献しています。

◆にしあいづ健康ミネラル野菜普及会（西会津町）

キャッチフレーズ：「広げよう ミネラルの郷づくりの輪」



道の駅「よっせ」ミネラル野菜直売所での会員の皆さん

西会津町では、「健康の町」宣言を契機に、健康な土づくりによる「ミネラル栽培」がスタートし、平成12年に、家庭菜園のミネラル栽培実践者により「にしあいづ健康ミネラル野菜普及会」が設立されました。普及会は、ミネラル栽培の実践、学校給食や福祉施設への食材の供給、小・中学生への農業体験の支援、直売やイベントでのミネラル栽培の啓発・普及に取り組んでいます。また、町全体でのミネラル栽培推進により、専業農家へ取組みが波及し、農協やスーパーへの出荷量が大きく増加、農業経営の安定に寄与しています。さらに、「ミネラル野菜」はレストランなどへ利用の輪が広がり、町のブランドとして認められています。

普及会の活動は、会員の女性や高齢者の生きがいがづくりはもとより、町民の健康づくりにも貢献しています。これらの「ものづくり・人づくりの輪」は大きく広がり、地域の活性化に大きく貢献しています。

◆大松川区（下郷町）

キャッチフレーズ：「～街道と国道が結ぶ心と心～ 歴史と自然の里 大松川」



ウォーキング参加者が心地よく歩けるよう
区民により整備された旧街道

大松川区では、国道289号の開通を起爆剤として、区民が一丸となったむらづくり活動を展開してきました。

農産物直売所や旧街道ウォーキング事業を柱とする県内外からの交流人口は、年間3千人にのぼります。さらに、心のもったおもてなしと魅力的な地域資源、および歴史的ストーリーにより、リピーターが増えています。

直売所活動は、高齢者や女性のいきがいにもなっています。この他にも、関係団体と連携した環境整備や獣害対策、伝統行事の継承など、様々な活動を行っています。

大松川区でも高齢化や後継者不足が進んでいます。しかし、「ひとりひとりがそれぞれのできることを」を合い言葉に、比較的大きな区でありながら密接なコミュニティが形成されている取組みは、周囲の模範となっています。

【 農業生産部門 】

◆郡山市農業協同組合種子生産部会（郡山市）

キャッチフレーズ：

「ふくしまの米づくりを支えて50年、努力・努力で皆さんに良い種子を提供」



ほ場審査前の全体説明会

食糧増産の昭和30年代、米の品質向上のため優良種子の確保が求められる中、前田沢農事実行組合を母体として、種子生産に取り組むことになりました。地域が一体となり、「良い種子をつくろう」という高い意識と努力により、50年間、優良な種子生産を維持しており、採種面積が県内2番目の種子団地となっています。種子生産が地域の主たる産業として、農業経営の安定化につながるとともに、種子を接点としたコミュニティの醸成が図られ、水稻種子生産以外の担い手としても、部会員が地域農業振興に寄与し、耕作放棄地の発生防止にも大きく貢献しています。

また、福島県のオリジナル品種である「天のつぶ」種子生産の多くを担っており、今後、需要の高まりが見込まれる中、優良で均一な水稻種子の安定生産は重要性を増しています。

◆NPO 法人会津自然塾（会津美里町）

キャッチフレーズ：「有機農業で地域興し・農業は地球を救う」



会津自然塾の皆さん

環境に配慮した農業への関心が高まる中、有機農業を実践する農業者に加え、有機農業を支援する消費者も会員となり、会津自然塾が結成されました。

消費者会員と行う啓発活動をはじめ、農業者会員による勉強会や交流により、地域での有機農業に対する理解醸成と生産・有機認証の拡大が図られつつあります。また、会を通じた宅配事業により、少量多品目の生産者でも販売先を確保し、安定かつ継続した取引が可能となりました。その結果、宅配事業を含めた会員の有機農産物の総売上げ額は順調に伸び、農業経営の安定化へ大きく寄与しています。

有機農業により、環境負荷の低減、生物多様性の保全という環境面において、自然と調和した農業生産活動が行われるとともに、次世代の農業の担い手にとって魅力ある農業ともなり、地域の活性化にもつながっています。